

抒情詩とは何か

中世から近現代まで

抒情詩とは、叙事詩、劇詩と共に詩の三大区分の一つを成し、主に詩人の内面、感情や情緒を主観的に表現した文学ジャンルである——我々がよく知るこのような抒情詩の定義は、実は近代に定着したものである。それでは、それ以前において「抒情詩」は何を意味し、どのような作品であったのだろうか。本シンポジウムでは、中世、ルネサンス期、近代、現代の各時代の専門家を招待し、それぞれの時代における抒情詩の定義を論じることで、抒情詩概念の通史の素描を試みたい。

個別発表(11:00-15:00)

マルコ・グリマルディ: 中世の抒情詩

ロレンツォ・アマート: ルネサンス期の抒情詩

グイード・マッツォーニ: 近代の抒情詩

イーダ・ドウレット: 現代の抒情詩

* イタリア語と日本語の対訳原稿が配布されます。

ラウンドテーブル(15:30-17:30)

挨拶: 小野寺賢一、司会: 國司航佑

パネリスト: マルコ・グリマルディ、ロレンツォ・アマート、グイード・マッツォーニ、イーダ・ドウレット

* 通訳あり。

開催日 **2025年 6/7** **土**
時間 **11:00~17:10**

会場

立命館大学衣笠キャンパス
恒心館 (地図上13番)
2階: 209教室



聴講のお申込は[専用フォーム](#)より、5月31日(土)までお願いいたします。

主催: 関西イタリア学研究会

協賛: 立命館大学国際言語文化研究所 協力: イタリア文化会館-大阪 後援: イタリア学会

本シンポジウムはJSPS科研費JP22K13094およびJP22K00454の助成を受けたものです。





マルコ・グリマルディ

ローマ・サピエンツァ大学准教授。専門はイタリア文学と中世南仏文学。おもな著作にダンテの *Rime* への注解、*Filologia dantesca. Un'introduzione* (Carocci, 2021) および *Dante lirico. Saggi sulle rime* (Vallecchi Firenze, 2025) がある。



ロレンツォ・アマート

東京大学准教授。専門は、ルネサンス期の人文主義、ルネサンス期のフィレンツェの詩、本の歴史、イタリアとその他の文化圏（フィンランド、日本、そしてペルシャ）の交流史。主な編著に *Theotocon* di Domenico da Corella (ed. di Storia e Letteratura, 2012)、主な作品に *La tradizione manoscritta delle 'Rime' di Giovan Battista Strozzi il Vecchio*, Polistampa, 2019) がある。



グイド・マツォーニ

シエナ大学教授。専門は、文学理論とクリエイティブライティング。詩人。主な著書に、*Sulla poesia moderna* (il Mulino, 2005, *On Modern Poetry*, Harvard University Press, 2022)、*Teoria del romanzo* (il Mulino, 2011, *Theory of the Novel*, Harvard University Press, 2017) がある。



國司航佑

立命館大学文学部准教授。専門はヨーロッパの思想と文学。ジャコモ・レオパルディおよびベネディット・クローチェを中心に、文学、哲学、歴史などの人文諸科学を学際的に研究している。主な著書に『詩の哲学——ベネディット・クローチェとイタリア類廃主義』（京都大学学術出版会、2016）、訳書にジャコモ・レオパルディ『断想集』（幻戯書房、2020）がある。



イーダ・ドウレット

京都大学文学部特任准教授。専門は近現代のイタリア文学。主な著書に「*C'era una volta un piccolo scaffale*». *Interpretazione e commento di "Altri versi" di Eugenio Montale*, (Agorà&Co, 2023), 「*I grattacieli*». *Una poesia inedita di Montale al Centro Manoscritti di Pavia* («Quaderni montaliani», 3, 2023) がある。



小野寺賢一

東京都立大学人文社会学部准教授。専門はドイツ抒情詩の歴史と理論。主な論文に「ヘルダーリンの詩作における「発信源 (Adressant)」と作者との関係——未完の頌歌「詩人の勇氣 (Muth des Dichters)」の草稿群と「詩人の勇氣 (Dichtermuth)」ならびに「臆心 (Blödigkeit)」について」(『ドイツ文学』, 166号, 2022)、「理論家と詩人たち——18世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツにおける「抒情詩」をめぐる論争」(『世界文学』137号, 2023) などがある。

